

平成27年度第5回佐倉市行政評価懇話会

- 1 日 時 平成27年11月10日（火）午後1時30分～
- 2 会 場 佐倉市役所 議会棟全員協議会室
- 3 内 容（議事）
 - （1） 部局との意見交換
 - （2） 平成27年度施策評価について
 - （3） その他
- 4 その他
 - （1） 事務連絡等（事務局）

資料

- ・資料1 平成27年度評価対象施策（施策評価資料）
- ・資料2 平成27年度行政評価懇話会スケジュール
- ・資料3 3章基本施策2 説明資料
- ・資料4 3章基本施策4 説明資料
- ・資料5 3章基本施策8 説明資料

実施計画書（第3回改訂版）
その他参考資料

平成 2 7 年度評価対象施策（平成 2 6 年度実施施策）

章	基本施策			P
3	「心豊かな人づくり・まちづくり」 ～教育の充実、スポーツ活動の推進～			
	(2)	【佐倉学】	佐倉学を推進します	1
	(4)	【青少年育成】	家庭・地域と共に青少年を育むまちにします	6
	(8)	【地域のなかの学校】	地域から信頼され地域に支えられる 学校のあるまちにします	11

1. 総合計画における位置づけ

基本 施策	第3章 「心豊かな人づくり、まちづくり」 ～教育の充実、スポーツ活動の推進～
	(2) 佐倉学を推進します
主管課	
教育委員会 社会教育課	
担当課	
教育委員会事務局 指導課、教育委員会事務局 社会教育課	
関連基本施策	
関連課	
総合計画掲載ページ	
94 ページ	

2. 現状と課題

1	○佐倉学の推進 佐倉の自然、歴史、文化、ゆかりの人物を学び、将来に活かすことが佐倉学です。学校教育と社会教育が一体となってこれを推進することにより、佐倉に伝統として息づく「好学進取の気風と品格のある人材」の育成を目指しています。 地域への愛着を深め、郷土に対する誇りが生まれる、社会の発展に貢献する人材が育つ、心が豊かになり、品格と規範意識が育つことのために、佐倉の特性を活かした佐倉学を推進していく必要があります。
2	○地域教材を活用した学習の支援 図書館は地域を支える知の情報拠点となっています。そこで、佐倉学が定着し、息づいたまちにするためには、地域に関する資料を収集・整理し、その利用に供することなどにより学習の支援を充実していく必要があります。
3	
4	
5	

3. 基本方針

郷土佐倉に対する誇りや愛着を育むことを目的とする「佐倉学」を普及、定着させます。 学校教育では各小中学校の教育課程に佐倉学を位置づけ、主に社会科や総合的な学習の時間の中で佐倉を学ぶ学習を展開していきます。また、社会教育では、地域に関する資料を収集し、地域に関する学習資料として活用します。さらに、公民館での佐倉学講座、図書館での推薦図書リストの紹介や関係図書コーナーの設置など、佐倉学と連携した関連事業を実施します。
--

4. 施策

単位：千円

01	施 策 名		佐倉学を推進します						
	施策の概要		新しい地域文化を創るため、身近な教育資源を教材とする佐倉学関連事業を、各担当課や公民館・図書館などで連携して実施します。						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計	
	投入量	事 業 費 A	696	740	564	667	0	計	2,667
		職員人件費 B	6,372	5,142	3,983	4,028	0		19,525
コスト総計 A+B		7,068	5,882	4,547	4,695	0	22,192		
02	施 策 名		地域教材を活用した学習を推進します						
	施策の概要		郷土に対する愛着を深めるため、佐倉の自然・歴史などの地域の教材を活用した学習を支援します。						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計	
	投入量	事 業 費 A	1,041	970	843	743	0	計	3,597
		職員人件費 B	1,489	503	689	2,796	0		5,477
コスト総計 A+B		2,530	1,473	1,532	3,539	0	9,074		

5. 活動・成果指標

成果指標 1	指標名	佐倉への愛着度の割合					単位	%
	指標の解説	市民意識調査における佐倉への愛着度の市民の割合です						
	目標値の考え方	前年度の実績値増を目指します						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		65%	66%	66%	67%	67%	68%
	実績値	65% (22年度)	65%	69.8%	—	—		
成果指標 2	指標名	佐倉学を知っている市民の割合					単位	
	指標の解説	市民意識調査において、佐倉学を知っている市民の割合です						
	目標値の考え方	前年度の実績値増を目指します						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		17%	18%	18%	19%	19%	20%
	実績値	17% (22年度)	17%	13.2%	—	12.5%		
成果指標 3	指標名	佐倉学道徳副読本を授業等で活用している学校数					単位	校
	指標の解説	市内小中学校の中で道徳教育を充実させるため、佐倉学道徳副読本を授業で活用している学校数です。						
	目標値の考え方	全校での活用が望ましいことから、34校での実施を目指します。						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		30校	34校	34校	34校	34校	34校
	実績値	24校	32校	31校	31校	34校		
成果指標 4	指標名	佐倉学副読本を授業等で活用している学校数					単位	
	指標の解説	市内小中学校の中で佐倉学を推進するため、佐倉学副読本を授業で活用している学校数です。						
	目標値の考え方	全校での活用が望ましいことから、34校での実施を目指します。						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		34校	34校	34校	34校	34校	34校
	実績値		34校	34校	34校	34校		

6. 施策の総括・成果（成果指標達成に関する評価）

評価	A：順調に進捗している
施策の 総括・成果	・佐倉学講座を26回実施し、1,314人が参加しました。 ・平成26年度は、佐倉学道徳副読本検討委員会を開催し、「佐倉の道徳」小学校版・中学校版の改善案の検討及び指導関連資料の作成を行いました。 ・佐倉学副読本「ふるさと佐倉の歴史」を小学校6年生全児童数及び学校数分を増刷・配布しました。市内全小中学校で、社会科、総合的な学習の時間をはじめとする教科・領域等の年間指導計画に位置付けて、授業で活用しました。 本基本施策につながる2事業とも、まだまだ拡大は必要ですが、平成26年度目標は達成しておりますので、本基本施策は順調に進捗しているものと判断します。

7. 今後の課題点

課題点	・佐倉学講座後のアンケートの集計・分析を行い、市民ニーズをとらえた上で、次年度の計画に反映させていく必要があります。 ・佐倉学道徳副読本検討委員会では、本文資料は現状のまま、今後は授業そのものの改善や事前指導・関連学習等の検討を行い、指導内容・方法の充実を図っていく必要があります。 ・佐倉学の推進を継続していく必要があります。 ・今後も年度末までに、佐倉学副読本の印刷・製本・配送を確実に実施・継続する必要があります。
-----	---

8. 今後の取組方針

今後の 取組方針	・佐倉学講座は参加希望者が年々増えており、市民ニーズも高いことから、継続して実施します。また、各担当課や公民館、図書館などと連携強化を図ります。 ・地域の学習として、ふるさと佐倉の理解や郷土愛の育成のため、佐倉の歴史・自然等を学んでいくことはますます重要になっていきます。 ・佐倉学実施状況調査や佐倉学道徳副読本活用状況調査の結果を踏まえ、充実した副読本となるよう改訂に努めます。 ・全小中学校での副読本の活用を通して、佐倉学の推進を継続していきます。
-------------	---

9. 担当課評価に対して委員会等からの意見

委員会等 からの意見	
---------------	--

10. 委員会等からの意見に対して担当課回答

担当課の意見 への回答	
----------------	--

11. 意見等を踏まえた今後の反映に向けて

今後の反映	
-------	--

1 2. 構成実現方法（予算事業）の方向性・優先度判断

事務 事業 コード	実現方策名（事務事業名）	事業費	コスト計	達成度
		人件費		貢献度
	担当課			
03020100 第3章・基本施策2・施策1 佐倉学を推進します				
214	佐倉学事業	667	4,695	概ね達成できた
				非常に高い
	社会教育課	4,028		継続（現状維持）
03020200 第3章・基本施策2・施策2 地域教材を活用した学習を推進します				
876	佐倉学推進事業	743	3,539	目標達成できた
				非常に高い
	指導課	2,796		拡大（重点化）

1. 総合計画における位置づけ

基本	第3章	「心豊かな人づくり、まちづくり」～教育の充実、スポーツ活動の推進～
施策	(4)	家庭・地域と共に青少年を育むまちにします
主管課		
教育委員会 社会教育課		
担当課		
健康こども部 児童青少年課、教育委員会事務局 社会教育課		
関連基本施策		
関連課		
総合計画掲載ページ		
98 ページ		

2. 現状と課題

1	○青少年を取り巻く環境 青少年を取り巻く環境は、少子化や核家族化の進展のほか、インターネットの普及による情報化が進んでいます。また、最近では、景気の低迷により若年層の雇用状況が悪化しています。これらを背景に、国は平成22年4月に子ども・若者育成支援推進法を施行し、社会全体で若者を支える仕組み作りに取り組んでおり、地方公共団体にもその役割が求められています。
2	○家庭の教育力の低下 家庭教育は、すべての教育の原点であり、次代を担う子どもたちの健やかな成長にとって重要な役割を担っています。しかし、社会構造の変化などにより、家庭の教育力が低下してきているとの指摘もあり、子育てをするすべての人の不安感や負担感、孤立感を取り除き、子育ての喜びや楽しさを感じられるよう、家庭教育を支援していく必要があります。
3	○青少年の規範意識や社会参加意識の低下 青少年の実態として、規範意識が低い、対人関係能力が乏しい、社会への積極的な参加意識が低いことなどが一部で指摘されています。そのため、他人を尊重することの大切さ、個人としての権利とそれに伴う責任、正しい行い、人種・文化の多様性の価値など、青少年が身に付けるべき社会的スキルを学ぶ機会の提供（シティズンシップ教育）の推進が求められています。そこで、社会の一員として積極的参加と責任を果たす青少年の育成のための施策を推進していく必要があります。
4	
5	

3. 基本方針

地域の子どもたちの成長を支援するため、学校・家庭・地域社会とより一層の連携のもと、地域の教育活動を推進します。家庭の教育力向上を図るとともに、青少年健全育成のための団体支援や青少年活動の担い手を育成します。また、ジュニアリーダーの育成や、子どもの当事者性を活かした事業を展開します。
--

4. 施策

単位：千円

01	施 策 名		家庭教育を支援します						
	施策の概要		家庭教育事業や地域の子育て事業、子どもたちの体験活動、家庭教育学級を実施します。						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計	
	投入量	事 業 費 A	2,041	1,913	2,043	2,174	0	計	8,171
		職員人件費 B	10,635	8,700	4,955	5,655	0		29,945
コスト総計 A+B		12,676	10,613	6,998	7,829	0	38,116		
02	施 策 名		地域とのふれあいを増やします						
	施策の概要		青少年が、命の大切さや社会のルール、物事の判断基準などを身につけられるよう各種ボランティア活動などを行う機会を提供します。青少年に対して、様々な体験の場を提供します。						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計	
	投入量	事 業 費 A	2,967	2,991	2,805	3,002	0	計	11,765
		職員人件費 B	13,461	15,421	16,364	13,299	0		58,545
コスト総計 A+B		16,428	18,412	19,169	16,301	0	70,310		
03	施 策 名		青少年の健全育成に取り組みます						
	施策の概要		『青少年育成計画』を策定し、社会全体での青少年育成を総合的・計画的に推進します。この中で、青少年を取り巻く有害環境対策に取り組むほか、地域の中で、青少年の健全育成に向けて活動している各地区住民会議、青少年相談員、子ども会などの地域活動を支援します。						
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合計	
	投入量	事 業 費 A	29,515	30,308	30,036	32,512	0	計	122,371
		職員人件費 B	17,923	20,172	18,874	19,474	0		76,443
コスト総計 A+B		47,438	50,480	48,910	51,986	0	198,814		

5. 活動・成果指標

成果指標 1	指標名	全家庭教育学級参加者数					単位	人
	指標の解説	市内の全家庭教育学級で実施した講座に参加した人数です						
	目標値の考え方							
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		8,000人	8,000人	8,000人	8,000人	8,000人	8,000人
	実績値	7,873人 (22年度)	7,122人	6,915人	6,288人	6,471人		
成果指標 2	指標名	子育て講座参加人数					単位	
	指標の解説	子育て講座へ参加した人数です						
	目標値の考え方							
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		3,000人	3,000人	3,000人	3,000人	3,000人	3,000人
	実績値	3,168人 (22年度)	3,551人	3,313人	3,629人	4,024人		
成果指標 3	指標名	成人式参加率					単位	%
	指標の解説	住民登録のある新成人に対する出席者の割合です						
	目標値の考え方							
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		69.0%	66.3%	68.4%	70.6%	印旛管内成人式平均参加率	印旛管内成人式平均参加率
	実績値	75.3% (22年度)	77.3%	73.9%	75.3%	74.2%		

6. 施策の総括・成果（成果指標達成に関する評価）

評価	A：順調に進捗している
施策の 総括・成果	・子育て講座については、中高生対象子育て理解講座を市立中学校9校、県立高校1校で行いました。対象の中学校を25年度実施校数から3校増やし、拡充を図りました。 ・家庭教育学級の講座を276回実施し、目標を達成することができました。 ・学童期子育て学習を小学校全23校、思春期子育て学習を中学校全11校で行いました。 ・成人式の参加率が74.2%という高い参加率を得て、印旛管内自治体の平均参加率70.6%を上回り、目標を達成することができました。 ・本基本施策の事業は総体的にみて目標を達成できたことから、本基本施策は順調に進捗していると判断します。

7. 今後の課題点

課題点	・家庭教育学級の運営の充実を図るため、運営研修会において、その充実を図っていく必要があります。 ・中高生対象の子育て理解講座の実施校拡充のため、各学校との調整を図っていく必要があります。 ・学童期、思春期子育て学習における実施内容、テーマ等の検討が引き続き必要です。 ・成人式については、会場の許容から、短い時間の中で、いかに新成人のための式典を演出するかが検討課題となっています。
-----	--

8. 今後の取組方針

今後の 取組方針	・教育の原点である家庭教育を推進するために、家庭教育学級の質が低下することがないように継続していきます。 ・円滑に家庭教育学級の運営が行われるよう必要な情報提供、学習支援を行っていきます。 ・中高生対象の早期における子育て理解講座が、市内中学校全校実施となるよう、拡充を図ります。 ・新成人の当事者性を持たせるためにも、成人式運営委員会を設置し、今後も同形式で成人式を継続して実施したいと考えます。 ・引き続き、児童の生活体験を重視した宿泊体験事業の充実を図っていきます。
-------------	--

9. 担当課評価に対して委員会等からの意見

委員会等 からの意見	
---------------	--

10. 委員会等からの意見に対して担当課回答

担当課の意見 への回答	
----------------	--

11. 意見等を踏まえた今後の反映に向けて

今後の反映	
-------	--

12. 構成実現方法（予算事業）の方向性・優先度判断

事務 事業 コード	実現方策名（事務事業名）	事業費	コスト計	達成度
		人件費		貢献度
	担当課			
03040100 第3章・基本施策4・施策1 家庭教育を支援します				
430	家庭の教育力推進事業	1,603	4,558	目標達成できた
	社会教育課	2,955		非常に高い
628	子育て講座事業	571	3,271	目標達成できた
	社会教育課	2,700		非常に高い
03040200 第3章・基本施策4・施策2 地域とのふれあいを増やします				
278	成人の日事業	1,428	5,476	目標達成できた
	児童青少年課	4,048		非常に高い
509	地域教育活動推進事業	629	5,527	概ね達成できた
	社会教育課	4,898		非常に高い
824	青少年健全育成推進事業	945	5,298	目標達成できた
	児童青少年課	4,353		非常に高い
03040300 第3章・基本施策4・施策3 青少年の健全育成に取り組めます				
54	青少年活動団体支援事業	3,985	15,710	概ね達成できた
	児童青少年課	11,725		非常に高い
698	青少年施設管理運営事業	4,830	7,243	概ね達成できた
	児童青少年課	2,413		高い
825	佐倉市ヤングプラザ管理運営事業	21,419	25,644	目標達成できた
	児童青少年課	4,225		非常に高い
9285	青少年施設整備事業	2,278	3,389	その他
	児童青少年課	1,111		その他

1. 総合計画における位置づけ

基本	第3章	「心豊かな人づくり、まちづくり」～教育の充実、スポーツ活動の推進～
施策	(8)	地域から信頼され地域に支えられる学校のあるまちにします
主管課		
教育委員会 学務課		
担当課		
教育委員会事務局 教育総務課、教育委員会事務局 学務課		
関連基本施策		
関連課		
総合計画掲載ページ	106	ページ

2. 現状と課題

1	○学校・家庭・地域の連携協力による学校づくり 子どもを育てる上で生じる課題は多種多様です。子どもの成長を支援する取り組みについては、地域と学校との連携協力が重要ですが、現状では、両者の交流範囲は限られており、その参加者も多くありません。また、地域住民の意向を学校運営に取り入れるための施策を行っていますが、参加者が限られており、地域住民に十分に浸透しているとはいえません。 学校運営の質に対する保護者や地域の関心が高まる中で、学校が適切に説明責任を果たし、学校の状況に関する共通理解を持つ必要があります。それをふまえて、地域人材の活用や行事などへの参加、安全パトロールへの参加などの活動を行うことにより、相互の連携協力の促進がさらに図られることが期待されます。
2	○学校の体制づくり 学校の安全対策については、保護者や地域との協力を得ながら取り組んでいるところですが、今後は、より実効性のある取り組みを継続的に進めることにより、安全・安心な学校体制づくりをめざしていく必要があります。
3	○幼稚園就園支援 保護者への育児支援や就労形態の多様化により、預かり保育のニーズが高まっています。幼児教育の向上を図るとともに、幼稚園通園児を持つ保護者の経済的負担の軽減を図る必要があります。
4	
5	

3. 基本方針

地域に開かれた学校づくりを目指し、学校に関する情報提供や学校評議員制度の充実を図り、多角的な視点を取りいれて学校を運営します。また、通学路等巡回警備やアイアイプロジェクトを実施し、学校・通学における防犯活動を推進します。さらに、市立幼稚園の預かり保育を拡大するとともに、私立幼稚園園児に対する就園を補助します。
--

4. 施策

単位：千円

01	施 策 名		学校・家庭・地域が連携します					
	施策の概要		地域住民が学校に来校できる機会を増やし、地域と学校との交流を推進します。学校と地域が連携し、よりよい教育環境を築くために、意見交換や情報提供を積極的に行います。さらに、子どもたちの学校・通学時における安全を確保するため、巡回警備を行います。					
	年 度		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	合 計
	投入量	事 業 費 A	35,571	10,761	10,418	11,850	0	計 68,600
		職員人件費 B	4,371	4,899	4,015	1,987	0	15,272
		コスト総計 A+B	39,942	15,660	14,433	13,837	0	83,872

5. 活動・成果指標

成果指標 1	指標名	スクールガードボランティア参加者数（アイアイプロジェクト）					単位	人
	指標の解説	児童・生徒の安全確保のための事業に基づくスクールガードボランティア参加者数を調査します。						
	目標値の考え方	児童・生徒の安全確保のための事業を評価するスクールガードボランティア参加者数とします。						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		9,100人	9,400人	9,400人	9,400人	9,400人	9,400人
	実績値	9,014人 (22年度)	9,365人	9,239人	9,345人	9,264人		
成果指標 2	指標名	教育ミニ集会への参加者数					単位	%
	指標の解説	市内小中学校34校で、年1回行われるミニ集会へより多くの人（地域の方、保護者、教職員、児童生徒）に参加していただき、学校と地域との相互信頼関係を深める。						
	目標値の考え方	「市内全児童生徒数」に対する「ミニ集会への参加者数」の割合						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		20%	21%	22%	23%	24%	25%
	実績値	18.6% (22年度)	19.4%	24.4%	29.2%	23.4%		
成果指標 3	指標名	幼稚園預かり保育利用者数（年間延べ人数）					単位	人
	指標の解説	通常の教育課程に係る教育時間終了後、2～3時間の短時間保育を実施することにより、就労している保護者の就労形態の多様化に対応します。						
	目標値の考え方	時間外における預かり保育利用者数を設定しました。						
	年度	初期値	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	最終目標値
	目標値		1,770人	1,770人	1,770人	1,770人	1,770人	1,770人
	実績値	1,770人 (22年度)	1,944人	2,147人	2,191人	1,903人		

6. 施策の総括・成果（成果指標達成に関する評価）

評価	B：概ね順調に進捗している
施策の 総括・成果	・スクールガードボランティアによる児童・生徒の見守り活動を実施しました。また、学校と地域の交流が図られ、学校を核とした地域コミュニティの向上がみられました。（アイアイプロジェクト参加者数9,264人） ・教育ミニ集会を各小中学校で実施。3,065人が参加しました。多種多様な意見交換から、学校と地域の信頼関係が深まり、学校を核とした、地域コミュニティの向上が見られました。 ・本基本施策につながる5事業につきましては、すべて目標を達成できたことから、本基本施策は順調に進捗しているものと判断します。

7. 今後の課題点

課題点	・通学路等巡回警備の内容や報告をわかりやすい情報にしていく必要があります。 ・スクールガードボランティアの人材を恒常的に確保していく必要があります。 ・学校評議員を学校関係者評価の中核に据え、学校評議員から頂いた意見や提言をいかに具現化していくかを検討する必要があります。 ・教育ミニ集会では、なかなか地域の方が集まらない地区もみられます。多くの方に幅広く参加してもらうための工夫が必要です。また、意見を出しやすくするための形態や進行を工夫する必要があります。
-----	---

8. 今後の取組方針

今後の 取組方針	・アイアイプロジェクトは児童・生徒の安全確保に係る重要な活動であると同時に、学校と地域の交流を促進するものであるため、引き続き支援をします。 ・地域との連携協力は、学校教育を支える根幹の部分であり、引き続き、地域との信頼関係を深めていくためにも、より多くの地域の方が学校に足を運んでいただけるように努めていきます。
-------------	--

9. 担当課評価に対して委員会等からの意見

委員会等 からの意見	
---------------	--

10. 委員会等からの意見に対して担当課回答

担当課の意見 への回答	
----------------	--

11. 意見等を踏まえた今後の反映に向けて

今後の反映	
-------	--

1 2. 構成実現方法（予算事業）の方向性・優先度判断

事務 事業 コード	実現方策名（事務事業名）	事業費	コスト計	達成度
		人件費		貢献度
	担当課			
03080100 第3章・基本施策8・施策1 学校・家庭・地域が連携します				
93	学校通学路安全確保事業	10,191	11,873	目標達成できた
	学務課	1,682		高い 継続（現状維持）
202	幼稚園新教育要領推進事業	0	0	
	教育総務課	0		
418	開かれた学校づくり推進事業	1,659	1,964	目標達成できた
	学務課	305		非常に高い 継続（現状維持）
614	市立幼稚園教育活動支援事業	0	0	
	学務課	0		
615	手厚い幼児教育支援事業	0	0	
	学務課	0		

平成27年度佐倉市行政評価懇話会スケジュール（案）

日 時（予定）	回数	内 容（予定）
7月30日（木） （午後3時20分～）	第1回	・平成26年度行政評価の報告 ・第4次佐倉市総合計画前期基本計画総括レポートについて ・平成27年度の行政評価について （行政評価懇話会意見交換対象基本施策の選択） ・意見交換
8月28日（金） （午後1時00分～）	第2回	・対象となる基本施策についての企画担当説明 （必要に応じて現場確認） ・意見交換について
9月18日（金） （午前10時～）	第3回	・現地視察
10月21日（水） （午後1時30分～）	第4回	・部局との意見交換（2～3基本施策）
11月10日（火） （午後1時30分～）	第5回	・部局との意見交換（2～3基本施策）
11月24日（火） （午後1時30分～）	第6回	・意見交換内容の確認 ・行政評価に関する全体的な意見について
12月22日（火） （午後2時00分～）	第7回	・意見書のとりまとめ
1月26日（火） （午後1時30分～）	第8回	・意見書提出

3 章基本施策 2

佐倉学を推進します

1 佐倉学講座の実績について

- ・ 佐倉学講座及びリレー講座の内容と参加者数について（H 2 3 ～ 2 6）
- ・ アンケートの集計・分析結果について
- ・ 受講者数とその傾向について

2 副読本の活用について

- ・ 佐倉学実施状況調査・佐倉学副読本活用状況調査の結果について
- ・ 小中学校で行う副読本を活用した授業の内容について

3 地域実践活動について

- ・ 地域教育力として行う講座の内容について
- ・ 学んだことが地域実践活動につながる事業の展開について

4 佐倉学の認知度について

- ・ 佐倉学の認知度の向上について

3 章基本施策 2

佐倉学を推進します

1 佐倉学講座の実績について

佐倉学講座及びリレー講座の内容と参加者数について（H23～26）

【社会教育課】平成23年度 佐倉学事業 実績							
【佐倉・城下町400年記念事業：リレー講座】					単位：人		
回	日程	テーマ	講師	会場	定員	申込者数	参加者数
1	8月27日（土） 13:30～15:30	「佐倉城下町の景観 ー武家屋敷・町屋と寺社ー」	濱島正士氏 国立歴史民俗博物館 名誉教授	国立歴史民俗 博物館	250	275	236
2	9月17日（土） 13:30～15:30	「佐倉の祭礼・江戸の祭礼」	山瀬一男氏 祭礼研究家	市立美術館	100	66	56
3	10月30日（日） 13:30～15:30	「新興武家地の誕生 ー幕末期の佐倉江戸詰藩士の 移住をめぐってー」	岩淵令治氏 国立歴史民俗博物館 准教授	志津公民館	100	108	92
4	11月23日（水） 15:00～16:30	「佐藤志津 ー佐倉が生んだ女性美術教育 の先駆者・女子美術大学の建 学とその精神ー」	大村智氏 女子美術大学理事長	国立歴史民俗 博物館	250	236	211
5	12月17日（土） 13:30～15:30	「堀田氏家臣の「家」存続をめぐ る人々の行動と意識」	藤方博之氏 千葉大学大学院	臼井公民館	100	114	107
6	平成24年 2月4日（土） 13:30～15:30	「佐倉城下町の景観を考える ー全国の城下町の例をみなが らー」	瀬戸達氏 全国町並み保存連盟 常任理事	市立美術館	100	72	81
7	平成24年 3月17日（土） 13:30～15:30	「夢さめみれば～日本近代洋 画の父・浅井忠～」	太田治子氏 作家	中央公民館	400	222	204
				計	1,300	1,093	987
【佐倉学歴史講演会（文化課共催事業）】							
8	平成24年 2月18日（土） 13:30～15:30	「徳川政権下での佐倉 ー近世佐倉の前夜ー」	柴裕之氏 東洋大学非常勤講師	国立歴史民俗 博物館	250	600	241
【佐倉学講座（公民館連携事業）】							
9	平成24年 1/11、1/18、 1/25全3回	「楽しく見て学ぶ佐倉の鉄道講 座」	白土貞夫氏 鉄道史研究家	中央公民館 志津コミセン 現地視察	25	37	36
10	平成24年 1/17～2/10 全3回×2講座	「成田道を歩くー佐倉と深い関 わりのある歴史街道ー」	八千代市郷土歴史 研究会	市立美術館～ 成田山新勝寺	40	118	52
				計	315	755	329

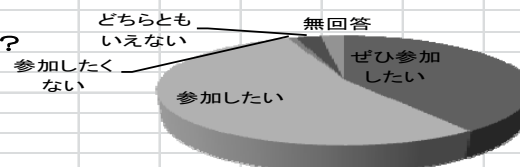
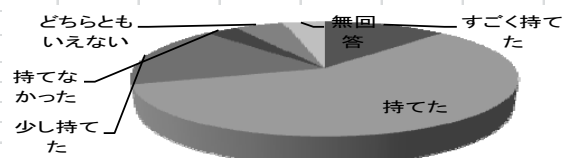
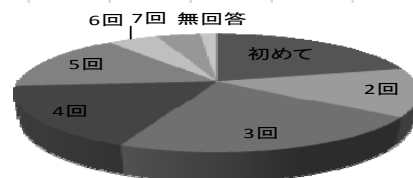
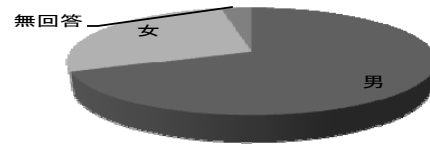
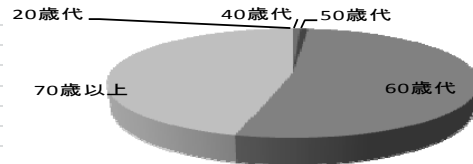
【社会教育課】平成24年度 佐倉学事業 実績						
【佐倉・城下町400年記念事業リレー講座】						
回	日程	テーマ	講師	会場	定員	実績
1	8月25日(土) 10:00～12:00	「佐倉連隊と戦時下の佐倉」	安田常雄 神奈川大学大学院 特任教授	志津 コミュニティセンター	200	250
2	9月22日(土) 10:00～12:00	「歴史小説に描かれた幕末の佐倉ー司馬遼太郎『胡蝶の夢』ー」	高比良直美 作家	市立美術館	100	101
3	10月27日(土) 13:30～15:30	「江戸の動物利用ー動物考古学の視点からー」	西本豊弘 国立歴史民俗博物館 教授	国立歴史民俗 博物館	250	53
4	11月10日(土) 12月1日(土) 9:30～12:00	「歴史の残影が佐倉を語る (佐倉地区散策全2回)」	NPO一里塚	佐倉地区散策	20×2	47
5	12月8日(土) 10:00～12:00	「海を渡ってきた古銭・貨幣」	高橋健一 酒々井町 文化財審議会副会長	臼井公民館	100	84
6	2月23日(土) 13:30～15:30	「江戸幕府の確立と土井利勝」 【文化課共催事業】	山本博文 東京大学大学院教授	国立歴史民俗 博物館	250	233
7	3月17日(日) 13:30～15:30	「佐倉に始まった順天堂の今日」	酒井シヅ 順天堂大学名誉教授	中央公民館	400	210
					計	978
【佐倉学事業】						
	日程	テーマ	講師	会場	定員	参加者
1	1/18、1/25、2/1 1/22、1/29、2/5 (全3回×2)	「成田道を歩く」(社教課)	八千代市郷土歴史 研究会	市立美術館～ 京成成田駅	20 ×2	25 25
2	9月2日(日)、 9月9日(日) (全2回)	「民話・伝説・小説・映画・写真から佐倉 を詠む」(中央公)	高比良直美氏 作家	中央公民館	90	90 90
3	1月19日(土)、 2月2日、23日、 3月9日、 (全4回)	「印旛沼の文化と自然」(中央公)	中谷順子氏(作家) NPO水環境研究所 錦木行廣(郷土史家) 水面水産研究所	中央公民館	90	44 50 34 42
4	2月24日(日)	「佐倉・城下町400年と土井利勝」 (中央公)	柴裕之氏 東洋大学非常勤講師	中央公民館	100	76
5	1月15日(火)、 1月23日(水)、 1月30日(水) (全3回)	「楽しく見て学ぶ鉄道講座」 (根郷公)	白土貞夫氏 ほか 鉄道史研究家	佐倉市内 成田市内	30	14 16 25
6	9月29日(土)、 10月6日(土)、 10月20日(土) (全3回)	「年貢道を歩く」(根郷公)	斎藤雄氏 座間功氏 佐倉歴史案内ガイド	根郷公民館	25	23 18 13
					計	585

【社会教育課】平成25年度 佐倉学事業 実績							
【佐倉・城下町400年記念事業リレー講座】							
回	日程	テーマ	講師	会場	定員	実績	
1	8月24日(土) 10:00～12:00	時代小説に描かれた佐倉 「野村胡堂一町人十萬石」	高比良直美 作家	志津 コミュニティセンター	400		237
2	10月20日(日) 10:00～12:00	堀田正睦	鍋木 行廣 元成田高校教諭	美術館	100		97
3	11月17日(日) 10:00～12:00	成田山と市川団十郎	小倉 博 成田山霊光館	臼井公民館 集会室	100		69
4	12月8日(日) 10:00～12:00	老中松平乗邑とその時代	高橋 健一 酒々井文化財審議会	臼井公民館 集会室	100		113
5	1月26日(日) 13:30～15:30	佐倉の水辺環境	倉西 良一 千葉県立中央博物館	中央公民館	100		34
6	2月15日(土) 13:30～15:30	房総里見氏と佐倉 ～千葉氏との関係を中心に～ 文化課共催事業	滝川 恒昭 船橋二和高校	国立歴史民俗 博物館	250		216
7	3月1日(土) 13:00～15:00	雪を科学する殿さま 土井利位 ～古河藩主土井利勝から受け継 がれる好学の気風～	永用 俊彦 古河歴史博物館	中央公民館	400		90
					計		856
【佐倉学事業】							
	日程	テーマ	講師	会場	定員		参加者
1	1/14、1/21、1/28 1/29、2/5、2/19 (全3回×2)	「成田道を歩く」(社教課)	八千代市郷土歴史 研究会	市立美術館～ 京成成田駅	20 × 2		21 23 21 21 19 20
2	9月1日(日) 9月8日(日)	「正岡子規『總武鐵道』から見えて 来るもの」(中央公)	高比良直美氏 作家	中央公民館	90		94 78
3	9月25日(水)	楽しく学べる和田地域塾 (和田公)	水環境研究所 岩井久美子氏	和田地区	20		3
4	10月23日(水) 10月30日(水) 11月6日(水)	地産地消 佐倉コミュニティカフェを 学ぼう(志津公)	加藤富美子氏 フードコーディネーター	志津公民館	20		14 15 13
5	11月21日(木) 11月28日(木) 12月5日(木)	楽しく見て学ぶ鉄道講座 (根郷公)	白土貞夫氏 ほか 鉄道史研究家	佐倉市内 成田市内 銚子市内	25		17 20 38
6	12月14日(土) 1月26日(土)	佐倉・城下町400年歴史散策 (中央公)	特定非営利活動法人 一里塚	佐倉市内	20 × 2		8 6
7	1月18日(土) 1月26日(日) 2月2日(日) 2月9日(日)	印旛沼の自然 (中央公)	村上勲氏 水環境研究所 岩井久美子氏・ 白鳥幸治氏	中央公民館	60		31 28 24 中止
8	3月15日(土)	古今佐倉真佐子を歩く(中央公)	特定非営利活動法人 まちづくり支援ネットワーク佐倉	中央公民館	20		25
					計		539

【社会教育課】平成26年度 佐倉学事業 実績						
【佐倉・城下町400年記念事業リレー講座】						
回	日程	テーマ	講師	会場	定員	参加者実績
1	8月23日(土) 10:00～12:00	佐倉惣五郎	鎚木 行廣 元成田高校教諭	志津 コミュニティセンター	400	261
2	9月20日(土) 13:00～ :00	「佐倉市史 考古編」 刊行記念講演会 市史編纂共催	市史編纂委員会	中央公民館	400	109
3	11月29日(土) 14:00～16:00	佐倉牧	小倉 博 成田山霊光館	臼井公民館 集会室	100	30
4	12月7日(日) 13:30～15:30	浅井 忠	中松 れい 千葉県立美術館主任 上席研究員	中央公民館 学習室3	100	40
5	1月24日(土) 10:00～12:00	最後の藩主堀田正倫と地域	宮間 純一 宮内庁書陵部図書課	佐倉厚生園病 院記念館	130	113
6	2月15日(日) 13:30～15:30	旧堀田正倫庭園	田畑 貞寿 千葉大学名誉教授	国立歴史民俗 博物館	250	136
7	3月15日(日) 13:00～15:00	依田学海	白石 良男 元佐賀大学教授	中央公民館	150	174
					計	863
【佐倉学事業】						
	日程	テーマ	講師	会場	定員	参加者実績
1	1/6・13・20(火) 1/9・26・23(金) (全3回×2)	「成田道を歩く」(社教課)	郷土歴史 研究家	市立美術館～ 京成成田駅	20 ×2	24 24 25 21 19 16
2	10月22日(水) 10月29日(水) 11月5日(水) 11月26日(水)	地産地消 佐倉コミュニティ カフェを学ぼう(志津公)	加藤富美子氏 フードコーディネーター	志津公民館	20	9 11 12 12
3	11月8日(土) 11月22日(土)	「メディアに見る佐倉の現代史」 (中央公)	内田儀久氏 満開佐倉文庫館主	中央公民館	90	40 33
4	11月11日(火) 12月2日(火)	楽しく見て学ぶ鉄道講座 (根郷公)	白土貞夫氏 鉄道史研究家	美術館 千葉市内	講演会100 見学会13	20 13
5	1月25日(日) 2月8日(日)	印旛沼今昔 (中央公)	小林裕美氏 千葉県立中央博物館	中央公民館	50	64 70
6	3月14日(日) 3月22日(日)	佐倉・城下町400年歴史散策 (中央公)	特定非営利活動法人 佐倉一里塚	佐倉市内	各回 20	4 10
7	3月18日(水)	古今佐倉真佐子を歩く (中央公)	特定非営利活動法人 まちづくり支援ネットワーク佐倉	佐倉市内	20	24
					計	451

アンケートの集計・分析結果について

平成 26 年度 佐倉・城下町400年記念リレー講座 参加者アンケート集計		
申込者数	215	
出席者数	174	
出席率	80.9%	
アンケート提出者数	122	
アンケート回収率	70.1%	
①年齢		
20歳代	0	0.0%
30歳代	0	0.0%
40歳代	1	0.8%
50歳代	1	0.8%
60歳代	64	52.5%
70歳以上	56	45.9%
計	122	100.0%
②性別		
男	84	68.9%
女	34	27.9%
無回答	4	3.3%
計	122	100.0%
③リレー講座の参加回数は？		
初めて	26	36.1%
2回	16	22.2%
3回	27	22.1%
4回	21	17.2%
5回	19	15.6%
6回	6	4.9%
7回	5	8.9%
無回答	2	1.6%
計	122	100.0%
④郷土佐倉に愛着、誇りを持てましたか？		
すごく持てた	15	12.3%
持てた	71	58.2%
少し持てた	21	17.2%
持てなかった	4	3.3%
どちらともいえない	6	0.0%
無回答	5	4.1%
計	122	100.0%
⑤来年度もリレー講座に参加したいですか？		
ぜひ参加したい	49	40.2%
参加したい	66	54.1%
参加したくない	1	0.0%
どちらともいえない	3	2.5%
無回答	3	2.5%
計	122	100.0%
⑥今後のリレー講座で学びたいテーマは？		
1 歴史	・幕府開闢当時の佐倉 ・土井利勝と築城 ・佐倉と戊辰戦争 ・佐倉連隊 ・順天堂の業績 ・佐倉藩士の日常 ・御成り街道 ・印旛沼干拓 ・臼井の歴史 ・幕末の佐倉 ・古今佐倉真佐子 ・平将門 ・本佐倉城 ・志津地区の歴史 ・市内麻賀田神社	
2 自然	・下総台地の自然 ・佐倉の湧水 ・水鳥の生体	
3 文化	・佐倉出身の作家 ・佐倉の民話 ・正岡子規の佐倉での足取り ・佐倉の祭礼 ・佐倉茶 ・佐倉と相撲	
4 人物	・堀田正盛、堀田正信 ・佐藤志津 ・西村茂樹、勝三 ・松本良順	
5 講師	・山本博文 ・中村彰彦 ・宮間純一	



受講者数とその傾向について

○アンケートより

- ・受講者は 60 歳以上の市民の割合が高く、男性が 7 割を占めている。
- ・複数回受講している方は 6 割近くにのぼっている。
- ・9 割以上の方が、講座を受けたことで佐倉への愛着を感じたり深めたりしている。
- ・講座への参加希望は多く、市民ニーズは高いと考えられる。

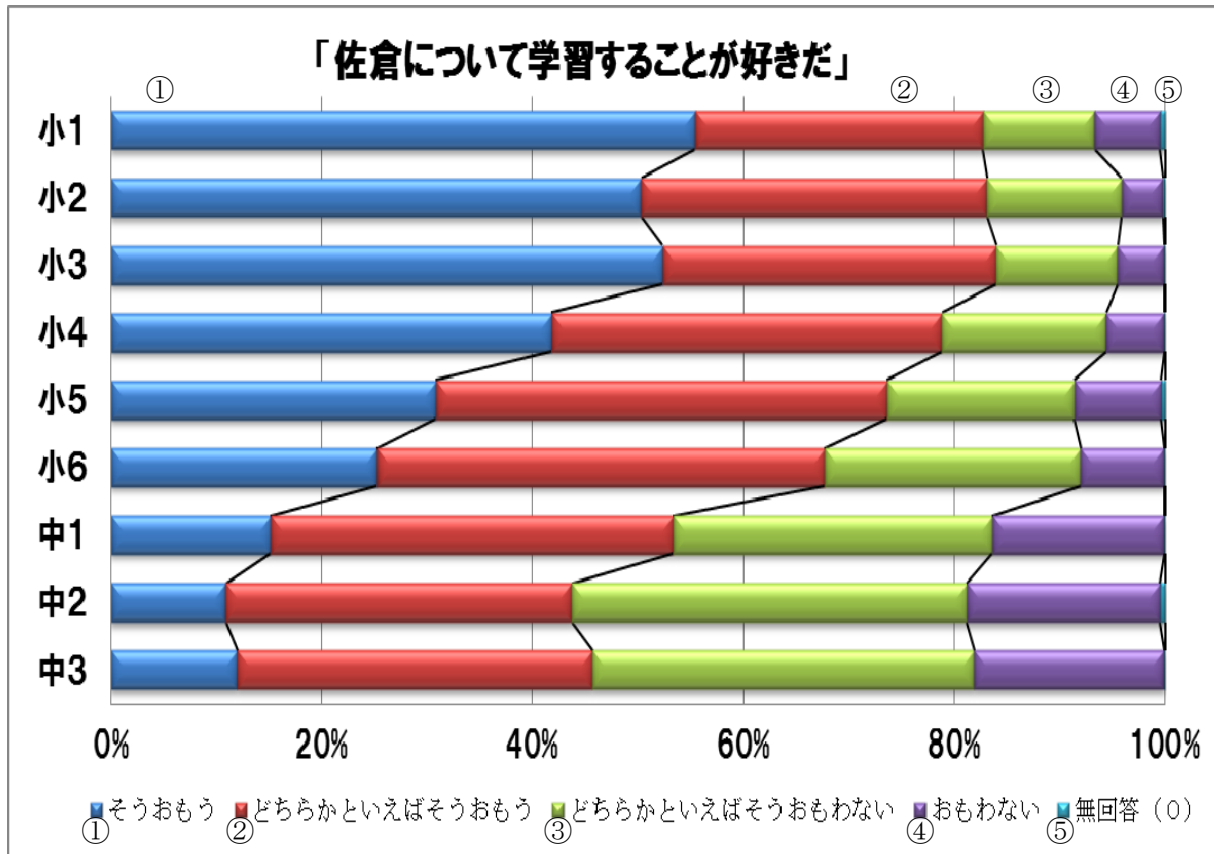
○全体の傾向として

- ・平成 26 年度の講座受講者は合計 1314 人であり、ほとんどが市民である。
- ・定員内であれば、市外の参加者も受け入れている。
- ・佐倉学講座の受講者は、60 歳以上の一般市民が大半を占めている。
- ・リピーターも多く、毎年楽しみにしている受講者も見られている。

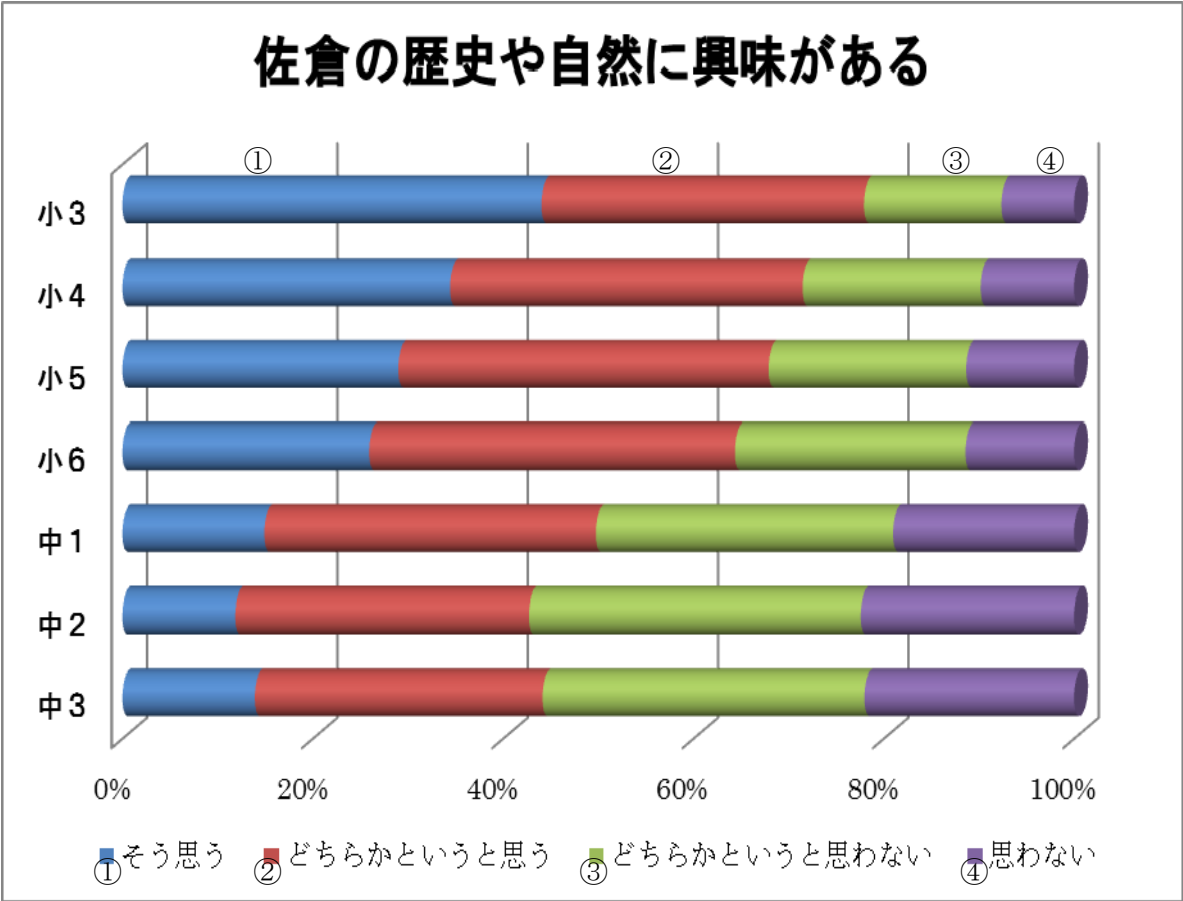
2 副読本の活用について

佐倉学実施状況調査・佐倉学副読本活用状況調査の結果について

佐倉学実施状況調査 ～H26「佐倉市学習状況調査」児童・生徒意識調査より～



	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかという とそう思わない	思わない
小 1	55.4	27.3	10.6	6.2
小 2	50.3	32.8	12.8	3.9
小 3	52.3	31.7	11.5	4.4
小 4	41.8	37.0	15.6	5.5
小 5	30.8	42.8	17.8	8.2
小 6	25.2	42.5	24.3	7.9
中 1	15.1	38.2	30.3	16.3
中 2	10.9	32.8	37.5	18.3
中 3	12.0	33.7	36.2	18.0



	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	思わない
小 3	43.9	33.8	14.4	7.6
小 4	34.4	37.0	18.7	9.8
小 5	28.9	38.8	20.7	11.3
小 6	25.9	38.4	24.2	11.4
中 1	14.9	34.8	31.2	19.0
中 2	11.8	30.7	34.7	22.3
中 3	13.9	30.2	33.8	22.0

道徳副読本活用状況調査（H26） 実践した学年と資料

【小学校】

人物	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計
津田梅子	6	15	4	4	2	4	35
堀田正倫	0	1	11	4	4	4	24
佐藤泰然	0	0	2	21	3	3	29
西村茂樹	0	0	0	3	4	5	12
津田 仙	1	2	3	2	13	4	25
浅井 忠	0	0	0	2	0	11	13
合計	7	18	20	36	26	31	138

【中学校】

人物	1 年	2 年	3 年	合計
堀田正睦	9	2	1	12
西村茂樹	2	4	0	6
西村勝三	0	2	4	6
合計	11	8	5	24

学力学習状況調査（H27） 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

今住んでいる地域の行事に参加していますか

区分	児童	生徒
佐倉市	68. 1	42. 3
千葉県	59. 2	39. 0
全国	66. 9	44. 8

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

区分	児童	生徒
佐倉市	66. 3	59. 1
千葉県	63. 6	55. 3
全国	63. 9	55. 9

地域や社会をよくするために何をするべきかを考えることがありますか

区分	児童	生徒
佐倉市	44. 1	35. 7
千葉県	44. 3	32. 5
全国	44. 8	32. 9

小中学校で行う副読本を活用した授業の内容について

第 6 学年 総合（佐倉学）指導モデル案

1 単元名 西洋野菜を日本に取り入れた 津田 仙

2 単元（佐倉学）について

津田仙は、日本初の女子留学生津田梅子の父親として登場することが多いが、私たちの生活に欠くことのできない西洋野菜を日本にはじめて取り入れた人物であると同時に、日本の近代農業の発展に貢献した先覚者である。

仙は、^{けいせう}慶応 3 年（1867）、選ばれて幕府の使節団の通訳としてアメリカに渡り、民主主義の考え方や女性の社会進出など、西洋の新しい文化に触れ、キリスト教の影響も強く受けて帰国した。帰国して、日本で初めての外国人向けのホテルに勤めた仙は、外国人に出す西洋料理のメニューには、西洋野菜が必要だということを知り、日本で西洋野菜の栽培を始めたのである。仙は工夫を重ね、この当時大変珍しかったアスパラガスやイチゴの栽培にも成功している。明治 6 年（1873）には、ウィーン万国博覧会に政府の書記官として随行し、^{のうぎようさんじ}オランダ人農学者のダニエル・ホイブレイクから農業の指導を受け、帰国後、『農業三事』というヨーロッパの農業を紹介する本を出版した。これは、日本で大反響を呼び、当時のベストセラーになった。また、そのとき仙がウィーン万博から持ち帰ったニセアカシアの種子は、帰国後の明治 8 年（1875）に東京の大手町に植えられ、日本初の街路樹となった。他にも仙は、自ら創刊した「農学雑誌」で明治 9 年（1876）にアメリカ産トウモロコシの種の通信販売を始めた。これが日本で最初の通信販売といわれている。仙は、さらに農業教育にも力を入れ自宅に「学農社農学校」を設立し、キリスト教精神を取り入れた教育を行い、その後、青山学院（現在の青山学院大学）の設立、現在の筑波大学付属盲学校の設立にも尽力した。このように新しいものに積極的に挑戦し、自分の信じる道をひたむきに進んだ仙は、明治 41 年（1908）、病に倒れ、多くの人々に惜しまれながら、72 歳の生涯を閉じた。

私たちが日常的に食している野菜の多くが、佐倉と深いゆかりのある人物の手によって広められたことは、新しい発見であり、食育と併せて指導することに大きな意味がある。

佐倉市の給食は全国的にも先進的な取り組みをしており、地産地消の視点からも津田仙を積極的に取り上げ、食育の推進を図っていきたいと考える。

3 活動計画（3 時間扱い）

過程	主 な 学 習 活 動	備 考	時配
導 入 ・ 調 べ る	① 津田仙の肖像画と津田仙メニューの写真を見て、感想を話し合う。	・津田仙という人物に関心を持たせ、給食の献立と関係があることに興味を持たせる。	1
	② 郷土の先覚者小辞典Ⅰのコピーから、津田仙を知る。	・津田仙の事績を年表で知らせる。	
	津田仙と西洋野菜について調べよう。		
	③ 郷土の先覚者「津田仙」、インターネットを使い、調べる。	・津田仙の業績を基に調べさせる。 ・学習カードに調べたことを簡条書	

ま と め る		きでまとめさせる。	
	④ 調べてわかったことをまとめる。 ・津田仙の肖像画を中心にまとめる。 ・簡易年表に付け足してまとめる。	・津田仙の肖像画を中心に調べたことをまとめていく。	2
	⑤ 津田仙メニュー試食し（給食の時間で可）感想を書き、発表する。 ⑥ 教師の話聞く。	・学習カードに学習した感想を書き発表させる。 ・佐倉東小学校に津田仙ゆかりの栗の木が植樹されていること、津田仙メニューが各学校で作られていること等を知らせ、佐倉学のねらいである「好学進取」の気風について考えさせる。	

4 考 察（佐倉学を取り入れることについて）

津田仙の功績は、西洋野菜の栽培に止まらず、近代農業の発展、足尾鉍毒問題、近代学校の設立、キリスト教の布教等幅広く及んでいる。その根本には、深い人間愛があり足尾鉍毒事件で田中正造などを支援したのも、農民に対する深い愛情の賜であると思う。仙は、新しい事柄に積極的に挑戦しようとする勇氣があり、梅子を外国に送ったのも自分が体験した西洋の文化を梅子をとおして日本に伝えたいという思いからであった。ここにも、佐倉の「好学進取」の気風を見ることができる。また、津田仙は、農業雑誌を刊行し、農村の人々が農業をとおして「学ぶ」ことを奨励した。定期的に刊行される雑誌には、最新の農業他の情報が掲載され、世の中がどう動いているのか、農村にまで広く知らしめることができた。十分に文字が読めない人は、読める人に雑誌を読んでもらい、情報を知り、仲間で話し合った。新しい作物も雑誌をとおして広がっていった。農業の振興は、政治に比べて注目度は少ないが、日本の食を支える大きな功績であることは間違いない。佐倉からそのような人物が出たことを私たちは誇りにしたい。

（資料提供・協力 佐倉東小学校）

第 2 学年 社会科（佐倉学）指導モデル案

1 単元名 日本を開国に導いた佐倉藩主 堀田正睦

2 単元（佐倉学）について

堀田正睦の取り扱いについては、小学校 6 年生の社会科学習の中で一度取り上げた事例である。しかし、中学校の社会科の「欧米の進出と日本の開国」の学習の中で「開国とその影響」について、当時の国際情勢を踏まえ学習することは大変意義深いものがある。学習指導要領には、その取り扱いについて「身近な地域の歴史上の人物を取り上げることに留意すること」と明記されており、堀田正睦を取り上げる意味は大きい。

堀田正睦が老中として取り組んだ、開国にいたるまでの時期は、日本の歴史上、日本が国家としての判断を迫られた最も困難な時期であった。しかも、諸外国の圧力により条約を結び国を開くことは、初めての経験であり、朝廷も諸藩も判断ができない状況にあった。その中で幕府の老中首座として、日本の舵取りをすることには大変な困難があった。しかし、正睦の判断は、後の世に評価されることになる。もし、このときに鎖国を継続し、諸外国の船の入港を禁じ、攘夷を断行していけば、さらなる混乱が日本を襲ったことは想像に難くない。国を開き、諸外国と交易し国を富ませることが、最善の方策であった。

正睦の政策は、大老井伊直弼、そして明治政府に引き継がれ政治の流れは絶えることはなかった。

佐倉からは、堀田正睦をはじめ、多くの先覚者が日本の近代化に大きな貢献をしている。その中でも中心となるのが堀田正睦である。国政の中心として、藩政の中心として、新しい時代を見据えた正睦の行動が、新しい人材を育て、その人物たちの力によって、日本は新しい国を造り上げたのである。

3 活動計画（9 時間扱い）

過程	主 な 学 習 活 動	備 考	時配
つ か む	① ペリーの来航について知る。 ・ペリーのアメリカから日本にいたる航路を地図に表す。 ・ペリーが来航する前後の世界と日本の主なできごとを年表にまとめる。	・ペリーの肖像画を見て印象を話し合う。 ・白地図に航路を記す。 ・年表を作成する。	1
	② 堀田正睦について知っていることを話し合う。 ・年表で業績を確認する。 ・堀田正睦に対する考えを話し合う。	・堀田正睦の肖像画を見て既習について話し合う。 ・年表を確認する。	1
	③ 欧米諸国のアジア侵略についてつかむ。 ・VTRを視聴する。	・三角貿易、アヘン戦争、インドの植民地化について知る。	1
	④ 学習問題を立てる。	外国からの圧力に対して、堀田正睦は、どのように立ち向かっていったのだろうか。	1

	⑤ 予想する。 ・戦う準備を進めたのだろう。 ・開国するために準備を進めたのだろう。	・国際情勢等を十分につかませ、予想を立てさせる。	
調 べ る	① 郷土の先覚者シリーズ、資料集、インターネット、自作資料等を活用して調べる。 ・開国までの流れ ・外国との交渉 ・朝廷等への働きかけ ・条約の成立	・調べる資料のポイントを示して調べさせる。	2
ま と め る	① ワークシートにまとめる。	・調べたノート、写真、イラスト等を関連付けてワークシートを作成する。	1
	② 発表会を行う。	・調べたことをもとに発表し合う。 ・詳しく知りたいこと、疑問に思ったことなどを質問する。	1
	③ 歴史ボランティアの方に話を聞く。	・歴史ボランティアの方に堀田正睦の話を聞き、新たな疑問を見つけ出させる。	1
	④ まとめる。		
堀田正睦は、日本にとって開国が必要だとの信念をもって、諸外国との交渉や国内の調整に努力し、日米修好通商条約を結んだ。			

4 考 察（佐倉学を取り入れることについて）

堀田正睦は、日本を開国に導いた功労者である。正睦の願いは、諸外国に屈することなく日本の独立を守ることであり、開国をしなければ日本は近代化に遅れ、諸外国の進出を防ぐことができないと考えていた。しかし、世論が攘夷論に傾く中、正睦の願いはすぐにはかなえられなかった。しかし、正睦の願いは、戊辰戦争の争乱を経て明治政府の手で実現することになった。当時の国際情勢、特に欧米諸国によるアジアへの侵略は、日に日に我が国に迫っていた。そのときの状況を正しく把握していたのは、日本の中でも限られた人たちだけであった。朝廷も攘夷論に傾き、倒幕を考える各藩の武士たちも正しく国際情勢を見つめることはなかった。そんな中で、開国を断行した堀田正睦の決意は、将来の我が国を見据えたからこそのものであった。

中学生にとって幕末から明治にいたる時代の国際情勢と日本は、事象が複雑で難解に感じる分野である。しかし、身近な佐倉の先覚者を取り上げることによって、より具体的に調査し、学習を進めることができる効果がある。

（資料提供・協力 佐倉中学校）

3 地域実践活動について

地域教育力として行う講座の内容について

佐倉学では、郷土佐倉に対する誇りや愛着心を育み、地域づくりへの主体的な参加や学ぶ意欲の向上を目指しています。この趣旨を受け、市内の各小中学校や公民館等の社会教育施設で学ぶ機会を提供しています。市民がより佐倉に愛着を深められるよう、豊かな自然や歴史、優れた先覚者等を学べる講座を企画、実施しています。

学んだことが地域実践活動につながる事業の展開について

地域実践活動に直接つながる内容での講座は実施していませんが、佐倉学講座を受けた方々が郷土佐倉に愛着を持ち、公民館等を拠点として地域貢献する市民講師や活動団体となって活躍しています。

（佐倉コミュニティカフェ 和田地域学 臼井八景巡り 等）

4 佐倉学の認知度について

佐倉学の認知度の向上について

市民意識調査による佐倉学の市民認知度は低下傾向にあります。佐倉学講座は、社会教育課主催以外にも、市内全公民館で毎年実施しており、多くの市民が参加しています。認知度が低下している原因として、次の内容が考えられます。

①「佐倉学」としてのPRが足りない。 ②講座の受講者の減少

①については、佐倉学講座の実施の際には、初めに「佐倉学」事業の一環である旨の説明をし、終わりには「佐倉学」としての振り返りを行うようにする等、佐倉学の趣旨をしっかりと明示する場を設けていきます。

②については、アンケート等から市民のニーズをよりの確につかんでテーマを設定する等、幅広く市民が参加できるよう内容や周知の方法について工夫していきます。

3 章基本施策 4

家庭・地域と共に青少年を育むまちにします

1 宿泊体験学習について

- ・通学合宿について
- ・交流合宿について

2 子育て理解講座について

- ・講座内容について
- ・実施実績について

3 家庭教育学級について

- ・家庭教育学級の内容について
- ・運営研修会について
- ・課題点について

4 成人式について

- ・成人式及び成人式運営委員会の課題について
- ・印旛管内自治体以外の県内、近隣他県の成人式の参加率について

5 佐倉市の青少年について

- ・佐倉市の青少年の傾向、特徴について
- ・佐倉市の青少年活動団体の名称と活動状況について

6 佐倉市の P T A について

- ・佐倉市の P T A の現状について
- ・佐倉市の課題認識と改善の取り組みについて

7 ヤングプラザについて

- ・ヤングプラザの現状と今後の活用について

8 子育て支援担当部局との連携について

- ・現状・課題認識について

9 佐倉市の教育について

- ・佐倉市の教育の長所・短所について

3 章基本施策 4

家庭・地域と共に青少年を育むまちにします

1 宿泊体験学習について

通学合宿について

○通学合宿とは

異年齢の子どもたちが親元を離れ、青少年施設や公民館等で一定の期間、寝食を共にし、日常生活の基本を自分自身で行いながら学校に通う活動をいう。

○目的

子ども 親元を離れて異年齢集団で生活体験を行うことにより、自主性、協調性を高め心豊かでたくましく生き抜く力を育む。

家庭 一定期間、子どもと離れて生活することで、日頃の親子関係を見直し、家庭の教育力向上を目指す。

地域 地域の方々や保護者が、共に子どもの生活体験活動にかかわることにより、地域のつながりを深め、地域の教育力のさらなる向上を目指す。

○佐倉市の取り組み状況（27 年度）

地区	時期	主催	備考	定員	参加
志津地区	6/7～10 3泊4日	社会教育課	志津小・下志津小・王子台小が1年ごとに実施。	21	19 志津小
根郷地区	6/21～24 3泊4日	根郷公民館	根郷小・寺崎小・山王小に参加募集をして実施。	21	21 3校
内郷地区	9/27～10/2 5泊6日	実行委員会 (社会教育課)	内郷小単独で実施。	21	14 内郷小
佐倉地区	9/27～30 3泊4日	中央公民館	佐倉小と佐倉東小が1年ずつ交互に実施。	21	21 佐東小

○アンケート結果（27 年度 志津小）

参加児童 ①次回も参加したいか

参加したい 12人 参加したくない 0人

②通学合宿で学んだことがあるか

ある 12人 ない 0人 （料理、洗濯、協力すること等）

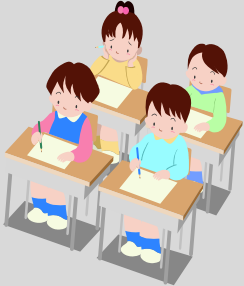
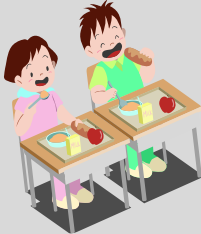
保護者 ①通学合宿の目的を感じることができたか

感じた 11人 少し感じた 1人 感じなかった 0人

②来年もお子さんを参加させたいか

ぜひ参加させたい 10人 参加させてもいい 2人 参加させたくない 0人

○日程表（27 年度 志津小）

6月	6月7日(日)	6月8日(月)	6月9日(火)	6月10日(水)	
5:00		1班起床(朝食準備)	2班起床(朝食準備)	3班起床(朝食準備)	
5:30		全員起床			
6:00		朝食			
7:10		登校 (7:40着)			
8:00		学校   			
10:00	受付開始				
10:30	開講式				
11:00	班目標決め メニュー決め				
11:30					
12:00					
12:30	食事				
13:00	メニュー決め				
13:30					
14:00					
14:30	1・2・3班 食材買出				
15:00					
15:30					
15:50	下 校				
16:20	1班 夕食準備	2班 夕食準備	3班 夕食準備	大掃除	
	2班 自由時間	3班 自由時間	1班 自由時間		
	3班 風呂掃除	1班 風呂掃除	2班 風呂掃除		
17:00	3班 入浴	1班 入浴	2班 入浴	感想まとめ	
17:30	2班 入浴	3班 入浴	1班 入浴		
18:00	夕 食	夕 食	夕 食	閉講式	
18:30					
19:00	1班片づけ・入浴	2班片づけ・入浴	3班片づけ・入浴	解 散	
				(19時予定)	
20:00	学習・日記・話し合い 				
20:30					
21:00					就 寝 準 備
21:30					就 寝

交流合宿について

○目的

市内の学校間において、他校の児童同士が生活体験や寝食等を通じて新たな交友を広げるとともに、地域理解、他者理解を深め、児童の社会性育成の一助とする。

市内唯一の小規模特認校の弥富小学校を主会場とすることで、他地区の児童、保護者の弥富地区の魅力を知る機会とする。

○対象

市内小学生 3～6 年生希望者

○過去の参加状況

年	月 日	人数	内訳
H 22	8/19～20（弥富小・公民館）	22 名	弥富 10 名・西志津 12 名
H 23	8/19～20（弥富小・公民館）	26 名	弥富 13 名・西志津 13 名
H 24	7/30（西志津小） 8/23～24（弥富小・公民館）	18 名	弥富 9 名・西志津 9 名
H 25	7/30（西志津小） 8/25～26（弥富小・公民館）	17 名	弥富 7 名・西志津 10 名
H 26	7/31（武家屋敷・市民体育館） 8/24～25（弥富公民館）	27 名	弥富 9 名・西志津 9 名・ 根郷 9 名
H 27	7/30（武家屋敷・市民体育館） 8/23～24（弥富公民館）	30 名	弥富 14 名・西志津 5 名・ 根郷 2 名・上志津 3 名・ 志津 1 名・王子台 1 名・ 臼井 2 名・寺崎 1 名

○内容（27 年度）

ふれあい交流会（7/30）

会場 武家屋敷・佐倉市民体育館

内容 武家屋敷見学 ― 佐倉子どもカルタ ― 昼食 ― 室内レク（ユニカール）

交流合宿（8/23～24）

会場 弥富公民館

内容 1 日目 ウォークラリー ― 風呂 ― 夕食 ― 星空観察 ― 就寝

2 日目 起床 ― 朝食 ― 真空パック作り ― 弥富散策 ― 昼食

○アンケート結果（27 年度）

参加児童 ①参加して良かったか

良かった 23 人 少し良かった 1 人 良くなかった 0 人

②他の子と交流ができたか

よくできた 17 人 少しできた 7 人 できなかった 0 人

保護者 ①お子さんを参加させて良かったか

良かった 18 人 良くなかった 0 人

②来年もお子さんを参加させたいか

参加させたい 17 人 今はわからない 1 人 参加させたくない 0 人

2 子育て理解講座について

講座内容について

○家庭科、総合的な学習の時間等の授業と連携した子育て理解学習の実施

助産師による子育て理解についての講演

経産婦、乳児との触れ合い、体験談

質疑応答 等

○対象

市内中学生

○運営分担

社会教育課 … 各団体との連絡調整、講師依頼、謝金手続き 等

助産師会 … 講演担当、経産婦協力者調整 等

学校 … 会場準備、感想とりまとめ・報告 等

実施実績について

年	東 高校	佐倉	西志 津	臼井 南	井野	志津	根郷	臼井 西	南部	佐倉 東	臼井	上志 津
H16	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H17	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H18	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H19	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H20	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—
H21	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—
H22	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—	—
H23	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—
H24	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—	—
H25	○	○	○	○	○	○	○	—	—	—	—	—
H26	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	—
H27	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

3 家庭教育学級について

家庭教育学級の内容について

○目的 集団学習を通じて、家庭教育に関する知識を深めるとともに、思いや悩みを共有できる仲間づくりを進め、学級生それぞれの家庭の教育力の向上を図る。

○対象 佐倉市立幼・小・中 全 3 5 学級

○回数 各学級年 6 回以上

○内容 家庭教育の学習 3 観点に沿った講座等を学級ごとに計画、実施。
「知識の学びの場」「親育ちの場」「交流の場」

○実績例（26 年度）

学級名	佐倉小学校 家庭教育学級		
年間学習主題	楽しく学んで親力アップ		
対象	全校児童の保護者の希望者		
実施日	学習テーマ	学習内容	講師等職氏名
5 月 9 日	開級式	・校長先生のお話 ・年間計画を立てる	佐倉小学校 校長 諸根彦之
6 月 9 日	身近な工場を見学しよう	2 学期から始まる弁当作りに役立てよう	石井食品 八千代工場様
9 月 17 日	楽しくお弁当作り 子どもの食育について	身近な食材で楽しいお弁当を作ろう	船橋市 堀川望美先生
10 月 21 日	骨盤動かしてる？ よさこい踊りでリフレッシュ	骨盤を整え、体感を鍛えよう	ユツキビクス 柴田由希子先生
11 月 17 日	市家庭教育講演会 骨粗鬆症って何？	骨粗鬆症について知ろう	龍野一郎氏
12 月 1 日	子どもの身近に潜むネットトラブルについて	実例を見ながら学習しよう	原田光久氏
12 月 11 日	傾聴・聴く事で伝わる子供の心を知ろう	改めて聴く事を習い、子供の心を理解しよう	キャリアカウンセラー 齋藤めぐみ先生
2 月 7 日	さくらヒューマントーク 人権について心から考える	さくらヒューマントークに出席して、人権について考えてみよう	チベット民族 バイマーヤンジンさん
2 月 16 日	指を動かそう ワイヤーコサージュ作り 閉級式	1 年間の締めくくりにワイヤーコサージュを作りながら年度を振り返ろう	佐倉小学校 保護者 後藤さん

運営研修会について

- 目的 家庭教育学級の目的及び運営委員と家庭教育学級主事の役割の理解
家庭教育学級の円滑運営のための事務手続きの理解
- 対象 家庭教育学級運営委員 家庭教育学級主事 約 120 名
- 回数 年 1 回（27 年度は 4 月 23 日開催）
- 内容 ①研修「佐倉市の家庭教育の充実に向けて」（講師：教育センター指導主事）
②事務説明会

課題点について

- 学校や運営委員によって、考え方や講座内容が変わり、負担感を感じながら行っている学級もある。
- 講座に参加者が集まらない時がある。
- 他学級との交流がほとんどない。

家庭教育学級の役員は 1 年ごとに変わるので、運営に不慣れな面も見られています。そのため、学校側より主事の先生を選出していただき、役員のアドバイザーとして支援をお願いしています。

参加者が集まらない講座については、講座の内容、時期、周知方法等の課題が考えられるため、主事の先生からの助言や支援、研修会での過去の実績の紹介等で、運営側をサポートしています。

4 成人式について

成人式及び成人式運営委員会の課題について

現在の成人式は、落ち着いた雰囲気の中で実施され、会場となる佐倉市民音楽ホールの定員の関係から、地区により 3 回に分けて行っています。

成人式運営委員会については、概ね 6 月に委員を公募し、成人式に向けて話し合いなどを重ねていきますが、年によっては、委員がなかなか集まらず、成人式に向けた動きが停滞してしまうことが見受けられる時があります。

印旛管内自治体以外の県内、近隣他県の成人式の参加率について

成人式の出席率について、印旛管内自治体の出席率については、市として行政評価指標の一つとしているので、例年、佐倉市が取りまとめ調査を行っているところです。印旛管内自治体以外の県内自治体の参加率についての把握はしておりませんが、県が公表する県下の平均参加率は下記のとおりとなっています。

	22 年	23 年	24 年	25 年	26 年	27 年
佐倉市	70.8%	77.3%	77.3%	73.9%	75.3%	74.2%
県平均	69.8%	70.6%	70.5%	72.3%	73.9%	—

※平成 25 年成人式は降雪

5 佐倉市の青少年について

佐倉市の青少年の傾向、特徴について

これまでの学力学習状況調査を見ると、相対的に学力は、全国平均・県平均と比べ、概ね良好と見られる結果となっています。また、体力について、スポーツテストの結果を見ると、全国レベルで高い順位にある千葉県にあって、県平均と概ね同等の結果にあるものの、投てき種目については県平均をやや下回る傾向にあります。

また、児童生徒の意識について見ると、学力学習状況調査の結果では、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」や「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している」割合が全国平均・県平均を上回っており、また「学校の決まりを守っている」、「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思う」という規範意識についても全国平均・県平均を上回る割合となっております。

これらの数値から、学力・体力・意識面において、相対的に佐倉市の青少年は、落ち着いた傾向にあるとみられます。

〔平成 27 年度学力学習状況調査〕

小中の別	小学校				中学校			
科 目	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
内 容	主に知識	主に活用	主に知識	主に活用	主に知識	主に活用	主に知識	主に活用
佐倉市	73.8	67.2	76.7	45.5	77.5	66.8	63.7	41.6
千葉県	71.5	64.5	74.7	45.1	76.0	65.7	63.4	41.6
全国	70.0	55.4	75.2	45.0	75.8	65.8	64.4	41.6

〔平成 26 年度スポーツテスト〕

種目	市・県	小 4		中 2	
		男子	女子	男子	女子
握力	佐倉市	15.27	14.26	28.73	23.43
	千葉県	15.27	14.49	29.34	24.29
上体おこし	佐倉市	20.30	19.26	30.37	26.75
	千葉県	19.33	18.37	28.84	24.95
長座体前屈	佐倉市	32.82	36.12	46.61	47.94
	千葉県	32.37	36.47	46.93	48.77
反復横とび	佐倉市	42.85	39.82	52.53	47.58
	千葉県	40.87	38.86	52.91	47.32
20mシャトルラン (回)	佐倉市	47.22	36.12	87.25	62.57
	千葉県	46.92	36.76	87.79	62.26
50m走	佐倉市	9.49	9.85	7.84	8.67
	千葉県	9.50	9.77	7.79	8.63

立ち幅跳び（cm）	佐倉市	149.37	142.21	199.05	171.78
	千葉県	148.31	142.09	198.57	172.99
ソフトボール投げ＊	佐倉市	20.38	12.02	20.56	12.39
	千葉県	20.13	12.45	21.13	13.33

＊中学生の種目はハンドボール投げ

〔平成 27 年度学力学習状況調査〕「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合

ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか		
区分	児童	生徒
佐倉市	95.7	94.2
千葉県	94.4	93.9
全国	94.5	94.2

難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか		
区分	児童	生徒
佐倉市	79.4	73.3
千葉県	75.5	69.7
全国	76.4	68.8

学校のきまりを守っていますか		
区分	児童	生徒
佐倉市	92.8	96.0
千葉県	91.5	94.2
全国	91.1	94.4

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		
区分	児童	生徒
佐倉市	96.5	93.8
千葉県	95.9	93.0
全国	96.2	93.7

佐倉市の青少年活動団体の名称と活動状況について

児童青少年課が所管している青少年育成団体は次のとおりです。

【佐倉市青少年相談員連絡協議会】

青少年相談員制度は、県下で青少年活動を支援するボランティアとして、昭和 38 年に設けられた県の制度で、これに対して、市も県と共に青少年相談員の委嘱を行っています。1 期 3 年の任期で平成 27 年度末を持って 18 期の活動が終了し、平成 28 年度から 19 期の活動が始まります。18 期は県下で 4,280 名の青少年相談員がおり、佐倉市では、71 名の方に委嘱しています。

県には、千葉県青少年相談員連絡協議会、郡単位で印旛郡には、印旛地区青少年相談員連絡協議会、佐倉市においては、佐倉市青少年相談員連絡協議会が組織され、それぞれ活動しています。

県連協では、昨年度、設立 50 周年事業を行い、記念式典、子どもたちを対象にしたダンスイベント、記念誌の発行を行っています。印旛地区連協では、管内の子どもたちが交流する事業として、少年の日・地域のつどい大会を行っています。

佐倉市青少年相談員連絡協議会は、7 つの地域組織から成り、各地区では、キャンプやたこ作り講習会などの開催のほか、地域のお祭りやゴミゼロ運動への協力などを行っています。市連協では、全市的な事業として、ソフトドッジボール交流大会やたこあげ大会、綱引き大会を展開しています。

【佐倉市青少年育成市民会議】

昭和 40 年 9 月に国の中央青少年問題協議会が行った青少年の非行対策に関する意見具申等を契機として、同年 11 月に、国により国民の総力を結集した青少年健全育成のための運動が提唱され、青少年育成国民運動が展開されました。この国民運動を推進するため、昭和 41 年に（社）青少年育成国民会議が発足し、昭和 42 年度末頃までに、全国に青少年育成都道府県民会議が結成され、市町村においても、相次いで青少年育成市町村民会議が結成され、国民運動の推進を図ることとなりました。

佐倉市においても、青少年育成国民運動に呼応するため、市が主体となって地域に働き掛け、昭和 57 年 10 月に佐倉市青少年育成市民会議が発足し、その地区組織として、佐倉地区をはじめ、臼井、志津、根郷、和田、弥富、千代田の 7 地区に地区住民会議が設置されました。それぞれの構成は、PTA や青少年相談員、民生委員児童委員、スポーツ推進委員、保護司会、更生保護女性会、交通安全協会、市民憲章推進協議会、小中高等学校等、子どもたちを取り巻く様々な関係機関から成っています。

取組みとして、各地区住民会議では、非行防止のための夜間パトロールや地域交流まつりや軽スポーツ大会といった地域のつながりを強めるための活動、啓発としての標柱の設置等を行っており、市民会議では、親子農業体験活動である畑の学校に取り組んでいます。

【佐倉市子ども会育成連盟】

主に小学生を中心とした子どもたちの地域活動として、大字などの地域単位で子ども

会が組織され、様々な体験活動が行われています。それら子ども会活動の市単位での組織が佐倉市子ども会育成連盟で、現在、38 団体 2,164 人が加盟しています。上部組織として、郡には印旛郡市子ども会育成連合会、県には千葉県子ども会育成連合会、国には全国子ども会連合会があり、全子連は主に子ども会活動中のケガ等に備えるため、安全共済会という共済保険を運営しているほか、各種講習の認定も行っています。

佐倉市子ども会育成連盟を構成する地区組織として、中央公民館が事務局を担っている佐倉地区子ども会育成会連絡協議会、臼井公民館が事務局を担っている臼井地区子ども会育成会連絡協議会、根郷公民館が事務局を担っている南部地区子ども会育成会連絡協議会があり、地区子連はないものの、志津地区の子ども会も加盟しています。

なお、南部地区子ども会育成会連絡協議会には子どもたちの育成組織として、南部地区ジュニアリーダーズクラブがあり、志津公民館を拠点に志津地区ジュニアリーダーズクラブが活動しています。

子ども会活動は、育成者などの大人の手による運営ではなく、子どもの手による運営が期待されているところで、子ども自身による子ども会の担い手を育成するため、ジュニアリーダー認定講習会が行われ、初級は市町村子連単位で、中・上級は県子連が主催しています。ジュニアリーダー初級認定講習会は、4 月に小学 5・6 年生を対象に募集を行い、5 月から 2 月にかけて 9 回の講習会を実施しています。その他に、各地区子連や関係団体と連携して子ども会中央交流フェスティバルという子ども会まつりを実施しています。

【ボーイスカウト・ガールスカウト育成会】

1900 年初頭にイギリスで始まったスカウト活動は、日本を含め世界中の様々な国で盛んな活動が行われています。佐倉市では、昭和 24 年に発団した佐倉第 1 団からはじまり 4 団まであり、それにガールスカウト千葉県連盟第 84 団が加わり、5 団で育成会を構成しています。

事業としては、自然体験活動のほか、市関連事業の参加協力（佐倉朝日健康マラソン、ごみゼロ運動など）、福祉活動の参加協力（清掃奉仕、施設慰問、募金活動など）に取り組んでいます。

6 佐倉市の P T A について

佐倉市の P T A の現状について

佐倉市には全ての公立幼小中学校に P T A 組織（単位 P T A＝単 P）があり、役員を中心に子どもたちの健全育成を目指して各活動に取り組んでいます。この単 P を取りまとめているのが佐倉市 P T A 連絡協議会（市 P 連）で、会長は 1 年任期で地区ごとにローテーションしながら運営しています。

（今年度は南部地区寺崎小学校が市 P 連会長および事務局）

佐倉市の課題認識と改善の取り組みについて

共働き等、働く親に対する負担感は佐倉市各校でも課題となっています。しかし、学校・家庭・地域の連携協力の観点からも P T A の活動は重要であるため、各校において、会員への P T A 活動の理解協力を得るとともに、役員選出にあたっては、一部の人に負担がかからないようそれぞれ配慮、工夫等を行っています。

市 P 連では、研修会や視察、懇親会等の場を設け、情報交換等を通し、会員相互の親睦を深め、単 P の発展に寄与しています。

7 ヤングプラザについて

ヤングプラザの現状と今後の活用について

平成 27 年 4 月から指定管理者制度を導入して 3 期目となり、あらたにシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社が、指定管理者となり佐倉市ヤングプラザを運営しています。これまでの指定管理者にはなかった取組みとして、施設の外へ出て社会を学んだり、乳幼児向けの事業を展開するなどし、これまでの中高生向けの事業に加え、多様な事業に取り組んでいます。また、利用者アンケートでは、指定管理者が変わって運営が良くなったという割合が多く見られ、運営は概ね良好と見られます。

今後の活用については、少子化の進展により、リピーターを増やしての利用者数の増加も頭打ちになることが予想され、事業評価を量から質へと転換することも検討し、利用者の当事者性を活かした事業展開が必要になってくるものと考えています。引き続き、青少年にとって様々な体験や異年齢交流などができる青少年の居場所となるよう、より魅力的な施設となるよう努めてまいります。

〔佐倉市ヤングプラザの利用状況〕

ヤンプラ利用状況	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
開所日数	359	359	359	183
利用者数	35,191	34,635	38,861	19,278
1 日あたり利用者数	98	96	108	105
多目的室利用組数	1,343	1,324	1,415	664
事業数	60	60	66	49
事業参加者数	1,286	962	1,829	1,095
年間指定管理料	21,087,000	21,049,512	21,418,732	21,000,000

＊平成 27 年度の数値は、年間指定管理料を除き上半期のもの

8 子育て支援担当部局との連携について

現状・課題認識について

子育て支援担当部局とは連携した事業等はありませんが、必要に応じて子育てに関する情報の交換、共有をしています。また、次世代育成支援に関して、世代間交流の推進事業や家庭教育力向上推進事業を展開するとともに、子育てを支援する生活環境の整備として、学校開放事業を行っています。

9 佐倉市の教育について

佐倉市の教育の長所・短所について

長所 ・ 青少年を育む事業として宿泊体験学習（通学合宿）を推進し、子どもたちの健全育成や地域教育力の向上に寄与している。

※千葉県では通学合宿実施は 54 市町村で 20 市町（26 年度）

地域の大学生や高校生、中学生が運営に協力

地区社協、スクールガードボランティア等、地元住民の協力

高校のセミナーハウス、青少年センター、南部地域福祉センター等の活用

短所 ・ 通学合宿の実施校が市内の約半数に留まっている。

宿泊施設、児童の送迎、運営体制等の問題

（交流合宿は今年度より全市対象）

3 章基本施策 8

地域から信頼され

地域に支えられる学校のあるまちにします

1 不審者について

- ・不審者といわれる状況について
- ・不審者とみなす判断について

2 スクールガードボランティアについて

- ・スクールガードボランティアの方々の研修会について
- ・スクールガードボランティアの募集について

3 学校評議員の意見や提言について

- ・学校評議員の意見や提言を生かしていく方策について

4 教育ミニ集会について

- ・教育ミニ集会の課題について

5 幼稚園の支援員について

- ・平成 23 年度に雇用した支援員のその後の雇用について
- ・平成 23 年度以降の支援員の補充について
- ・「幼稚園新教育要領推進事業」と「手厚い幼児教育支援事業」との関連性について

6 地域に開かれた活動における地域まちづくり協議会や学校運営委員会との協力等について

- ・地域まちづくり協議会や学校運営委員会との協力事例について

7 地域に開かれた活動として目標としている他市事例について

- ・佐倉市が目標としている他市事例について

3 章基本施策 8

地域から信頼され

地域に支えられる学校のあるまちにします

1 不審者について

- ・不審者といわれる状況について

不審者といわれる状況は、外見や言動が不自然で、不快感や恐怖感を感じるような状況をいう。

平成 26 年度不審者情報 9 件

被害内容一覧

被害内容	件数
声かけ	3
下半身露出	2
抱きつき・身体接触	2
写真を撮られる・ビデオで撮影される	0
追いかけ・つきまとい	2
その他	0
計	9

《その他(件)》

切りつけ(0)

刃物所持男と遭遇(0)

頭部殴打(0)

猥褻玩具見せられる(0)

投石(0)

連れ込み(0)

平成 27 年度不審者情報 10 件（10 月 26 日現在）

※今年度は 10 月 26 日現在で、昨年度の件数を上回っている状況である。

被害内容一覧

被害内容	件数
声かけ	3
下半身露出	2
抱きつき・身体接触	2
写真を撮られる・ビデオで撮影される	0
追いかけ・つきまとい	2
その他	1
計	10

《その他(件)》

切りつけ(0)

刃物所持男と遭遇(1)

頭部殴打(0)

猥褻玩具見せられる(0)

投石(0)

連れ込み(0)

- ・不審者とみなす判断について

【判断基準】

- ①露出（下半身等）
- ②声掛け
- ③抱きつき（身体接触）
- ④撮影
- ⑤追いかける つきまとい等

2 スクールガードボランティアについて

- ・スクールガードボランティアの方々の研修会について
年一回スクールガードフォーラムを開催しております。フォーラムの内容につきましては、警察署や消防署の方々の講演による研修と各地域の現状と課題などを話し合う意見交換会を実施しております。
- ・スクールガードボランティアの募集について
各学校の現状により異なりますが、主に学校だよりやPTA会議、地域会議、声掛けなどで募集しております。

3 学校評議員の意見や提言について

- ・学校評議員の意見や提言を生かしていく方策について
開かれた学校づくりを一層推進していくため、教育委員会が、学校長の推薦のもと、学校評議員を委嘱しております。
学校評議員には、校長及び園長の求めにより、各学校の教育目標及び教育計画に関する事項、教育活動に関する事項、地域との連携の進め方に関する事項等、学校及び幼稚園の運営に関して意見をいただいております。また、学区内の有識者、青少年団体等の代表者、保護者等から幅広く人選しているため、様々な立場から、期待や願い、子どもたちへの思いや新しい情報を伺うことができます。

いただいた意見や情報を子どもたちへの指導・支援に生かすため、学校では、現在の学校や地域の実情、特色に応じ、できるだけ早く効果的な体制を整えるよう努めております。教育委員会におきましても、引き続き学校との連携を密にし、具現化に向けた取り組みを支援してまいります。

○意見聴取した内容と学校数(複数回答)

内 容	学校数
学校評価に関する事	34
子どもの安全確保に関する事	33
地域との連携・協力に関する事	33
授業や学習に関する事	30
生徒指導に関する事	25
学校行事の内容に関する事	25
学校の基本的な目標・方針の設定に関する事	21
学校の施設設備に関する事	21
保護者に関する事	14
教職員に関する事	13
年間教育計画(行事計画等)に関する事	11
その他(特別支援教育に関する事)	1

4 教育ミニ集会について

・教育ミニ集会の課題について

教育ミニ集会は、学校職員と保護者を含む地域住民が、学校・家庭・地域の様々な教育問題について話し合うことで、

①地域住民の声を学校運営に生かす学校づくり

②お互いを理解するとともに、子どもの教育に対して協力し合う環境づくり

③地域コミュニティの構築

を目指して行われるものです。

したがって、保護者はもとより、できる限り広く、そして、一人でも多くの地域の方々に参加をしていただくことが課題となります。

現在、各学校区においては、概ね、教育ミニ集会の趣旨に添った形で行われております。今後も、これまで同様、意義ある集会となるよう、学校に対し、引き続き、以下の点に

ついて啓発してまいります。

①学校、家庭、地域の実態を明らかにし、それらをもとに、テーマを設ける。

②保護者や地域住民に、予め意見を持っていただく、また、広く参加をしていただくため、テーマを明示した開催通知を、学校だよりやホームページ、地域回覧等を活用して行う。

③活発な意見交換を図るため、実施内容・形態の工夫をする。

（例） ・授業・行事・講演会等とあわせた開催

・少人数グループによる話し合い

・事前アンケート調査をもとにしたテーマ別分科会の開催 等

④実施後は、集会の結果や出された意見を、学校だより等により保護者・地域に発信し、フィードバックする。

5 幼稚園の支援員について

・平成 23 年度に雇用した支援員のその後の雇用について

・平成 23 年度以降の支援員の補充について

・「幼稚園新教育要領推進事業」と「手厚い幼児教育支援事業」との関連性について

【目的】

平成 20 年 3 月に新幼稚園教育要領が制定され、平成 21 年 4 月 1 日から施行されることになったことに伴い、新要領に対応した事業の推進を図る。

（新要領の改正概要）

・幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続。（教職員の合同研修の充実）

・体験と言葉の重視など、子どもや社会の変化に対応した幼稚園教育の充実（子育て支援と預かり保育の充実）。

・平成 19 年 6 月の学校教育法の一部改正により、希預かり保育が位置付けられた

ことを踏まえ、幼稚園教育要領における位置付けの見直し。

- ・保護者の子育てについての理解を深め、家庭や地域の教育力の向上。

【事業】

千葉県ふるさと雇用再生特別基金事業補助金（補助率：10／10）を活用し、委託業務により新幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育の推進や預かり保育実施のための支援員を雇用するとともに、継続的な雇用機会の創出を図るための事業を実施する。

	事業名	対象	支援員	事業年度
1	手厚い幼児教育支援事業	（市内私立幼稚園） ① 佐倉城南幼稚園 ② 佐倉くるみ幼稚園 ③ さくら幼稚園 ④ 臼井たんぽぽ幼稚園 ⑤ 慈光幼稚園 ⑥ 小竹幼稚園	幼稚園教諭 各園 1 名	平成 23 年度
2	幼稚園新教育要領推進事業	（市内公立幼稚園） 佐倉幼稚園	幼稚園教諭 2 名	平成 21 年度～ 平成 23 年度
業務内容（1，2 共通） ※仕様書から抜粋 （1） 新教育要領に基づいた研究業務（読み聞かせ等業務） （2） 預かり保育に関する業務（受付業務、預かり保育等） （3） 園児登園期間外における業務（保育言語環境及び園庭環境） （4） 業務内容の確認・相談（指導計画及びきめ細やかな業務実施への対応）				

※ 平成 24 年度以降については、慈光幼稚園で 1 名の継続雇用があり、正職として雇用されている。また、佐倉幼稚園ではその後の雇用はありません。

6 地域に開かれた活動における地域まちづくり協議会や学校運営委員会との協力等について

- ・地域まちづくり協議会や学校運営委員会との協力事例について

地域まちづくり協議会と学校運営委員会が組織されている学校は、4 小学校ございます。そのうち、2 つの組織が具体的に協力している事例としましては、下志津小学校において、学校運営委員会の中の安全部会が開催しているスクールガード連絡会議に、地域まちづくり協議会の安心安全部会の方が出席し、スクールガードボランティアの募集に関しての広報活動に協力いただいております。また、毎年上志津中学区で行っている「手作りキャンプ in 上中」の手伝いに、学校運営委員会及び地域まちづくり協議会のメンバーが共に参加しているという事例がございます。

南志津小学校では、下志津小学校と一緒に地域まちづくり協議会が組織されており、上記の他に地域防災の取組として「炊き出し訓練」を 11／14 に行う予定でございます。

白銀小学校では、学校運営委員会の学校環境整備委員会と地域まちづくり協議会の生活環境部会が協力し、校内外の環境整備や挨拶運動を一緒に行っております。白銀小学校では、学校運営委員会及び地域まちづくり協議会がそれぞれ 5 つの組織に分かれて対応しており、名称は異なるもののメンバーが重なっている方も多く、可能な連携を図っている状況です。例えば、地域まちづくり協議会の生活環境部会の中に、里山保全委員会があり、里山をつくり、保護している活動を行っていますが、この里山の利用について学校と連携した取組を行っている事例もあり、今年度の市民学習発表会（11 / 28 実施予定）で提案いただく予定になっております。

7 地域に開かれた活動として目標としている他市事例について

・佐倉市が目標としている他市事例について

文部科学省の実施している施策に「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」があり、習志野市立秋津小学校はそのモデルケースのような形で、ホームページにも紹介されております。

佐倉市が実施している「学校運営委員会」と文部科学省が実施している「学校運営協議会」はシステム等が異なるものであり、市は独自のシステムで本事業を展開しているため、目標としている他市事例などはございません。